

＜地域ネットワーク部会：平成 24 年度事業計画の評価＞

1. 八重山・宮古・久米島・北部ではがん診療を行っている医療機関に、院内がん登録を用いて「症例区分（自施設診断のみ、自施設診断・自施設治療、他施設診断・自施設治療など）」を集計し、診療実態を明らかにする。
 目 標：2012 年 3 月までに院内がん登録データを収集し、院内がん登録データを用いて症例区分を集計する。
 実 績：支援病院で院内がん登録業務が始まったばかりのため、次年度調査を行う。
 評 価：1 点
 次年度：次年度調査を行う。

2. 沖縄県と共同で「沖縄県医療機能調査」の調査票を作成し、調査を行う。
 目 標：2012 年 4 月までに 6 WG で沖縄県医療機能調査（案）を作成し、2013 年 3 月までに調査結果を公開する。
 実 績：2012 年 2 月から 4 月の間に胃、大腸、肺、肝、乳、子宮がんのワーキンググループを開催した。会議やメーリングリストで協議を重ね、「沖縄県医療機能調査」がん部分の調査票を作成した。その後、沖縄県で調査を実施した。調査結果については、沖縄県医務課の意向で公開はまだされていない。
 評 価：1 0 点
 次年度：県や協議会の H P に情報を公開するよう、沖縄県医務課に働きかける。

3. がん診療を行っているが、地域連携パス事業協力医療機関に登録されていない施設に参加依頼申込書を送る。
 目 標：2012 年 6 月までに登録されていない 69 施設に送付する
 実 績：2012 年 10 月に 69 施設に送付した。
 評価：1 0 点
 次年度：引き続き、登録していない施設に働きかける。

4. がん地域連携クリティカルパス研修会を企画開催する。
 目 標：2013 年 3 月までに 5 回、院内又は一般向けに研修会を行う
 実 績：3 月までに中部病院・那覇市立病院が一般向け、琉大が院内研修会を行う予定である。
 評 価：5 点
 次年度：引き続き、院内および一般向けに研修会を行う。

5. 新たな疾患のパスの作成。
 目 標：2012 年 3 月までに子宮がん地域連携パスを作成する
 実 績：2012 年 11 月に第 1 回子宮がん作成ワーキングを開催した。今後、離島へき地用に子宮頸部円錐切除後経過観察のパスを作成予定である。
 評 価：5 点
 次年度：子宮頸部円錐切除後経過観察のパスを作成する。

6. 肺がん地域連携パスの運用、改訂、評価、各施設の運用強化を行う
 目 標：2013 年 3 月までに 100 人、沖縄県内でがん地域連携クリティカルパスを適用する
 実 績：3 拠点病院合計で 5 人適用した。
 評 価：1 点
 次年度：パスの適用数の増加させること、パスの改訂を行う。

7. 胃がん地域連携パスの運用、改訂、評価、各施設の運用強化を行う

目 標：2013 年 3 月までに 100 人、 沖縄県内でがん地域連携クリティカルパスを適用する
実 績：3 拠点病院合計で 14 人適用し、パスの計画表と経過表の改訂を行った。
評 価： 5 点
次年度：パスの適用数の増加させること、パスの改訂を行う。

8. 肝がん地域連携パスの運用、改訂、評価、各施設の運用強化を行う

目 標：2013 年 3 月までに 100 人、 沖縄県内でがん地域連携クリティカルパスを適用する
実 績：3 拠点病院合計で 3 人適用した。
評 価： 1 点
次年度：パスの適用数の増加させること、パスの改訂を行う。

9. 大腸がん地域連携パスの運用、改訂、評価、各施設の運用強化を行う

目 標：2013 年 3 月までに 100 人、 沖縄県内でがん地域連携クリティカルパスを適用する
実 績：3 拠点病院合計で 26 人適用した。
評 価： 3 点
次年度：パスの適用数の増加させること、パスの改訂を行う。

10. 乳がん地域連携パスの運用、改訂、評価、各施設の運用強化を行う

目 標：2013 年 3 月までに 100 人、 沖縄県内でがん地域連携クリティカルパスを適用する
実 績：3 拠点病院合計で 65 人適用した。
評 価： 7 点
次年度：パスの適用数の増加させること、パスの改訂を行う。

11. 前立腺がん地域連携パスの運用、改訂、評価、各施設の運用強化を行う

目 標：2013 年 3 月までに 100 人、 沖縄県内でがん地域連携クリティカルパスを適用する
実 績：3 拠点病院合計で 3 人適用した。
評 価： 1 点
次年度：パスの適用数の増加させること、パスの改訂を行う。

12. 沖縄県からの依頼で、沖縄県保健医療計画に係る「がんの保健医療体制の整備」のがん医療体制に関する医療機関選定要件を各疾患作成ワーキングで作成する。

目 標：2012 年 11 月末までに沖縄県で見直し作業が行われている沖縄県保健医療計中の沖縄県医療体制図の医療機関の選定要件の検討を各疾患作ワーキングが行う。
実 績：2012 年 10 月から 11 月の間に胃、大腸、肺、肝、乳、子宮がんのワーキンググループを開催した。会議やメーリングリストで協議を重ね、「がん医療体制に関する医療機関選定要件」を作成し、沖縄県医務課に提出した。
評 価： 10 点

平成 2 4 年度第 3 回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会

日 時 : 平成 2 4 年 1 0 月 1 7 日 (水) 1 8 : 0 0 ~ 1 9 : 2 0

場 所 : 琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構成員 : 8 名

出席者 : 7 名

佐村 博範 (琉大病院)、宮里 浩 (那覇市立病院)、照屋 淳 (北部医師会病院)、八幡 浩信 (中部病院)、川満 博昭 (宮古病院)、増田 昌人、仲本 奈々 (琉大病院)

陪席者 : 呉屋 葉子 (琉大病院)

[報告事項]

1. 平成 2 4 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨について
平成 2 4 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨について承認された。

2. 地域連携クリティカルパス適用件数について

10 月 17 日現在、沖縄県がん診療連携拠点病院 3 施設においてがん地域連携クリティカルパス適用数が 1 1 3 件であることが報告された。

3. 次期沖縄県がん対策推進基本計画について

事務局より、次期沖縄県がん対策推進基本計画 (協議会案) の内容について、2 5 年度は調査を行い、2 6 年度は調査結果から現状を定めて指標を決めることに変更したことが報告された。また、事務局とがん政策部会でがん計画について頂いた意見を計画に盛り込む作業を行うので、出来上がった最終案を部会委員に確認して欲しいと依頼があった。

[審議事項]

1. 今年度事業計画の実施について、以下の対策を行うこととなった。

施策 1 『がん診療を行っている医療機関には診療機能に関する調査を行い、八重山・宮古・久米島・北部では患者調査を行い実態を明らかにする。』

⇒医療機能に関する調査は既に県と合同で調査を行ったので済んでいる。『八重山・宮古・久米島・北部では患者調査』については、がん患者数、紹介数を院内がん登録を用いて対応し、数値を見てから、アンケートについては検討することとなった。

施策 2 『拠点病院に難治がんや希少がんの対応状況に関するアンケート調査を行う。』

⇒県と合同で行った沖縄県医療機能調査の結果で希少がんの現状を把握することとなった。

施策 3 『一般向けに、私のカルテのチラシを作成し広報する。』

⇒既に実施済みであることが報告された。

施策4『がん地域連携クリティカルパス研修会を企画開催する。』

⇒3月までに各施設それぞれ院内研修会を行うこととなった。また、離島でも1回開催することとなった。

施策5『新たな疾患のパスの作成』

⇒今年度中に子宮がんWGで子宮がん地域連携パスを作成することとなった。

施策6①～⑥『がん地域連携パスの運用、改訂、評価、各施設の運用強化を行う』

⇒クリティカルパスの運用数を増やすためにも、大腸がんと胃がんの化学療法の連携パスを作成することとなった。但し、化学療法を含むことから、院内および連携施設に対し教育が必要なため、各施設で院内研修会を行い対応することとなった。また、胃がんの診療計画表と経過表について、かかりつけ医が記入する欄がないことから、胃がん作成WG委員に確認して対応することとなった。

施策7『地域ネットワーク部会の活動を学会報告および実績を論文化する』

⇒県医師会の総会で、部会委員が地域ネットワーク部会の活動報告を行うこととなった。但し、資料は事務局で作成することとなった。

2. 次回の開催日程について

平成25年1月9日（水）18：00を予定していることが報告された。